



トラブルシューティング

Cisco SCE8000 プラットフォームは、出荷前に入念にテストされています。それでもプラットフォームの起動時に問題が発生する場合は、この章に記載された情報を使用して問題の原因を特定してください。この章で説明する手順は、システムの初回起動時のトラブルシューティングを想定しています。また、Cisco SCE8000 プラットフォームが出荷時の設定であることが前提です。コンポーネントの取り外しまたは取り付けを行ったり、デフォルト設定を変更した場合は、この章の推奨事項は適用されないことがあります。Cisco SCE8000 プラットフォームに付属の『*Regulatory Compliance and Safety Information for the Cisco SCE8000*』に記載されている安全上の警告を必ず読んでから、この章のトラブルシューティング手順を実行してください。

- 「[トラブルシューティングの概要](#)」(P.8-1)
- 「[ユーザ ログを使用したトラブルシューティング](#)」(P.8-11)

トラブルシューティングの概要

ここでは、この章で使用するトラブルシューティング方法、および Cisco SCE8000 プラットフォームをサブシステムに分割して問題解決の効率を高める方法について説明します。問題を容易に解決できない場合は、購入した代理店に解決方法をお問い合わせください。代理店には次の情報をお伝えください。

- Cisco SCE8000 の納品日
- シャーシのシリアル番号
- ソフトウェアのタイプおよびリリース番号
- 問題の概要
- 問題を特定し、解決するために行った手順の簡単な説明
- メンテナンス契約または保証内容

次の表に、この章で説明する一般的なトラブルシューティングの流れを示します。必要に応じてこの表を参照し、手順を実行し、問題を特定のサブシステムに限定してから、可能であれば問題を解決してください。

表 8-1 起動時の問題に関するトラブルシューティングの手順

	アクション	該当する場合	該当しない場合
ステップ 1	電源をオンにします。ステップ 2 に進みます。		
ステップ 2	次のことをチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> 前面パネルの POWER LED が点灯している 電源装置の「Input OK」LED が点灯している 「Output fail」LED が消灯している 	ステップ 3 に進みます。	「電源サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-7) を参照し、ステップ 3 に進みます。
ステップ 3	STATUS LED がレッドに点灯している (障害状態)	「ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング」(P.8-8) を参照し、ステップ 4 に進みます。	ステップ 4 に進みます。
ステップ 4	管理インターフェイスが動作可能である	ステップ 5 に進みます。	「管理サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-8) を参照し、ステップ 5 に進みます。
ステップ 5	リンク インターフェイスが動作可能である	ステップ 6 に進みます。	「リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング」(P.8-10) を参照し、ステップ 6 に進みます。
ステップ 6	システムが正常に起動する (すべてのインターフェイスが正常に動作する)	-	-

トラブルシューティング ツール

Cisco SCE8000 のインストレーションのトラブルシューティングには、次の 2 つのツールが役立ちます。

- 「トラブルシューティング用の CLI コマンド」(P.8-2)
- 「LED の確認」(P.8-4)

トラブルシューティング用の CLI コマンド

Cisco SCE8000 プラットフォームのインストレーションのトラブルシューティングに役立つ情報を表示するには、次のコマンドを使用します。詳細については、『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』または『Cisco SCE8000 CLI Command Reference』を参照してください。



(注)

管理インターフェイスが動作しない場合は、Cisco SCE8000 プラットフォームにローカル コンソールを接続して、トラブルシューティング用の CLI コマンドを入力できるようにする必要があります。

- ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング

- **boot system <filename>** : インストールするパッケージ ファイルを指定し、確認します。エラー メッセージまたはその他の出力により、パッケージ ファイルの問題を特定できます。

次に、**boot system** コマンドの出力例を示します。

```
SCE(config)#boot system ftp://cisco:cisco@10.10.10.10/downloads/SENum.pkg.pkg
Verifying package file SEnum.pkg.pkg...
Package file verified OK.
```

- 管理サブシステムのトラブルシューティング

- **show interface GigabitEthernet 1/1** : 管理インターフェイスの IP アドレスおよび自動ネゴシエーション情報を表示します。

次に、**show interface GigabitEthernet 1/1** コマンドの出力例を示します。

```
ip address: 10.1.6.145
subnet mask: 255.255.0.0
Configured speed: auto, configured duplex: auto
AutoNegotiation is On, link is Up, actual speed: 100, actual duplex: half
```

- **show ip default-gateway** : 設定されているデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを表示します。

次に、**show ip default-gateway** コマンドの出力例を示します。

```
Default gateway: 10.1.1.1
```

- **show ip route** : ルーティング テーブル全体、および最終的な宛先 (デフォルト ゲートウェイ) を表示します。

次に、**show ip route** コマンドの出力例を示します。

```
gateway of last resort is          10.1.1.1
```

- **show access-lists** : すべてのアクセス リストまたは特定のアクセス リストを表示します。

次に、**show access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
Standard IP access list 1
Permit 10.1.1.0, wildcard bits 0.0.0.255
deny any
```

- **show telnet** : Telnet サーバ デーモンのステータス (**status**) またはアクティブなすべての Telnet セッション (**sessions**) を表示します。

次に、**show telnet** コマンドの出力例を示します。

```
show telnet sessions
There is 1 active telnet session:
Index | Source
=====
0     | 10.1.1.201
show telnet status
Telnet daemon is enabled.
```

- **show line vty timeout** : Telnet セッションに設定されたタイムアウトを表示します。

次に、**show line vty timeout** コマンドの出力例を示します。

```
Timeout is 30 minutes
```

- リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング
 - **show interface TenGigabitEthernet 3/#/0** : 特定の 10GBE インターフェイスの情報を表示します。

次に、**show interface** コマンドの出力例を示します。

```
Auto negotiation configured: Disabled
Actual status:
Link is: ON
Auto negotiation: Disabled
Bandwidth (L1): 10000000 Kbps, Burst-size: 500000 bytes
Pseudo IP Address: Not Configured
```

- **show interface TenGigabitEthernet 3/#/0 counters** : GBE インターフェイスのカウント値を表示します。

次に、**show interface counters** コマンドの出力例を示します。

```
L2 In total octets: 792000
In good unicast packets: 12000
In good multicast packets: 0
In good broadcast packets: 0
In packets discarded: 0
In packets with CRC/Alignment error: 0
In undersized packets: 0
In oversized packets: 0
Rx pause packets: 0
L2 Out total octets: 0
Out unicast packets: 0
Out good multicast packets: 0
Out good broadcast packets: 0
Out packets discarded: 0
Tx pause packets: 0
Tx regular collision events: 0
L2 Bandwidth Kbps (Rx + Tx): 0
# of packets received of length (in octets):
64: 0, 65-127: 12000, 128-255: 0,
256-511: 0, 512-1023: 0, 1024-1518: 0,
1519+: 0
```

ユーザ ログに関するコマンドの説明については、「[ユーザ ログを使用したトラブルシューティング \(P.8-11\)](#)」を参照してください。

LED の確認

SCE8000-SCM-E 前面パネル、電源装置、およびファン アセンブリの LED は、プラットフォームの問題を最も短時間に検出できるメカニズムです。Cisco SC8000 プラットフォームの LED 情報については、次を参照してください。

- [表 2-3 \(P.2-3\)](#)
- 「[LED の確認](#)」(P.6-13)
- 「[システムの起動および初期状態の確認](#)」(P.7-2)
- 「[Cisco SCE8000 の動作状態](#)」(P.8-5)

Cisco SCE8000 の動作状態

次の表に、Cisco SCE8000 の動作状態を示します。サービス コントロール モジュールのステータス LED が、現在の Cisco SCE8000 の動作状態を示します。起動が完了すると、動作状態は CLI コマンドの **show system operation-status** を使用して表示できます。

表 8-2 Cisco SCE8000 の動作状態

Cisco SCE8000 の動作状態	説明	STATUS LED の状態
起動中	リセット後の初期状態	オレンジ
動作可能	次のプロセスが完了すると Cisco SCE8000 は動作可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> 起動 電源投入時セルフテスト（障害なし） プラットフォーム設定の適用 	グリーンに点灯
警告	Cisco SCE8000 は完全に動作可能（上記のとおり）ですが、次のいずれかが発生しています。 <ul style="list-style-type: none"> GBE 管理ポートのリンクがダウンしている 内部温度がしきい値を超えている 内部電圧が所定の範囲を外れている ファンに問題がある 電源装置に問題がある ディスク スペースが不足している (注) Cisco SCE8000 が警告状態になった原因が解決されると（リンクが起動するなど）、Cisco SCE8000 は動作可能状態に戻ります。	オレンジに点滅
障害	次の条件のいずれかが発生した場合、システムは起動後に障害状態になります。 <ul style="list-style-type: none"> 電源投入時テストに失敗 30 分以内に異常レポートが 3 回発生 障害によるレポートが発生した場合に障害モードになるようにプラットフォームが設定されている（CLI コマンドで設定可能） 長時間の過熱状態や、電圧の正常動作範囲の逸脱など、システム動作上の重大な問題 (注) 障害原因に応じて、管理インターフェイスおよびプラットフォーム設定がアクティブ/使用可能になったり、ならなかったりします。	レッド

表 8-3 電源モジュールの LED

LED のラベル	色	状態	機能
INPUT OK		点灯	入力電圧が存在し、所定の範囲内にあります。
		消灯	入力電圧が存在しないか、所定の範囲外にあります。
OUTPUT FAIL	グリーン	点灯	出力電圧が必要な範囲外です。

表 8-3 電源モジュールの LED (続き)

LED のラベル	色	状態	機能
		消灯	出力電圧が所定の範囲内です。
FAN OK	グリーン	点灯	電源装置の内部ファンが動作しています。
		消灯	電源装置の内部ファンが動作していません。
POWER (前面パネル)	グリーン	点灯	搭載されている電源装置が正常に動作しています。
	オレンジ	点灯	電源装置の 1 つが取り外されているか、あるいは動作不良です。
		消灯	電源が供給されていません。

表 8-4 ファンアセンブリ LED

LED のラベル	色	状態	機能
FAN STATUS	グリーン	点灯	すべてのファンが動作しています。
		消灯	1 つまたは複数の個別ファンが動作していません。

サブシステム別の問題解決

- 「起動時の問題の特定」 (P.8-6)
- 「電源サブシステムのトラブルシューティング」 (P.8-7)
- 「ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング」 (P.8-8)
- 「管理サブシステムのトラブルシューティング」 (P.8-8)
- 「リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング」 (P.8-10)

起動時の問題の特定

起動時の問題は、一般に電源問題またはケーブル接続不良が原因で発生します。

Cisco SCE8000 を最初に起動するときは、「Cisco SCE8000 プラットフォームの起動」 (P.7-1) に記載されている起動シーケンスを確認する必要があります。ここでは、標準の起動シーケンスの詳細、および予測どおりに起動シーケンスが実行されない場合の実行手順について説明します。起動シーケンスにおけるシステムの状態はすべて LED によって表示されます。LED の状態を確認することによって、起動シーケンスでシステム障害が発生した場所と時刻を判別できます。次の説明に従って、問題のあるサブシステムを特定し、該当する項を参照して問題を解決してください。

電源装置のスイッチをオンにしてシステムを起動すると、次のような状態になります。

- ただちに、ファンの動作音が聞こえます。
- STATUS LED がオレンジに点滅し、警告状態を示している場合は、ユーザ ログを調べます。
プロンプトで、次のように入力します：**more user log**

次のいずれかの警告メッセージが表示される場合は、(外部エアーフローの遮断など)原因が明確でなく容易には解決できないので、Cisco SCE8000 プラットフォームの電源をオフにして、テクニカルサポートに問い合わせてください。

- voltage problem
- fans problem
- abnormal raise in interior temperature

電源サブシステムのトラブルシューティング

次を確認し、電源サブシステムの問題を特定してください。冗長電源装置を搭載した標準構成の Cisco SCE8000 プラットフォームであれば、デバイスが完全に起動しないことはまずありません。ただし、起動時には、両方の電源装置が動作することを確認するようにしてください。Cisco SCE8000 プラットフォームに電源を投入したときに、前面パネルのいずれかの POWER LED が消灯したままになっている場合は、次の手順を実行する必要があります。



(注) 環境上の理由によるシャットダウンでシステムの電源が切断された場合は、最低でも 1 分経過してから、システムを手動でリブートしてください。そうしないと、システムは停止したまま動きません。

表 8-5 電源サブシステムのトラブルシューティング

現象	考えられる原因	推奨ソリューション
前面パネルの POWER LED および電源装置の LED が消灯しているか、または継続的に点灯しない	システムへの電源コードの取り付けが不完全	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードをシステムに取り付け直します。
	電源への電源コードの取り付けが不完全	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードを電源に取り付け直します。
	電源の故障	電源スイッチをオフの位置にし、別の電源を使用できる場合はその電源に電源コードを接続して、スイッチを再びオンにします。
	電源コードの障害	電源スイッチをオフの位置にして、電源コードを取り外し、交換します。
	電源装置の故障	電源装置に新しい電源コードを取り付け、別の電源に接続してもシステムが起動しない場合は、電源装置に問題があると考えられます。代理店に連絡してください。

ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング

次を確認し、ファームウェア パッケージのインストールに関する問題を特定してください。

ファームウェア パッケージのインストールに関連する問題は、次のいずれかが考えられます。

- 予測された場所にファイルが存在しない
- ファイル タイプが正しくない
- ファイルの展開先となるデバイスの容量に空きがない

表 8-6 ファームウェア パッケージ インストールのトラブルシューティング

診断アクション		
次の CLI コマンドを入力します。		
<ul style="list-style-type: none"> • <code>configure</code> • <code>boot system <filename></code> 		
現象	考えられる原因	推奨ソリューション
次のエラーが返される Error-File <filename>does not exist	指定の場所にパッケージ ファイルが存在しません。	パッケージ ファイルの場所を確認して、再実行してください。
コマンド出力に、パッケージ ファイル プラットフォームが Cisco SCE8000 に対応した正しいインストール ファイルでないことが示されている	パッケージ ファイル プラットフォームが一致していません。	ご使用のプラットフォーム タイプにパッケージ ファイルが適していることを確認します。

管理サブシステムのトラブルシューティング

次を確認し、管理サブシステムの問題を特定してください。

管理サブシステムの問題は、次のいずれかが考えられます。

- 管理リンクがダウンしている (MNG LINK LED が消灯していて、ステータスが警告状態)
- 管理リンクが起動しているが (MNG LINK LED が点灯)、ping に応答しない
- リンクの問題により、Telnet 接続を確立できない (MNG LINK LED が消灯)
- 管理リンクが起動しているが (MNG LINK LED が点灯)、Telnet 接続を確立できない
- Telnet 接続は確立されたが、自動的に終了する



(注)

管理リンクがダウンしているか、Telnet 接続を確立できない場合は、CON ポートに接続されたローカル端末上で CLI セッションをオープンする必要があります。これにより、問題を解決し、管理ポートから接続し直すことができるようになります。

表 8-7 管理サブシステムのトラブルシューティング

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
管理リンクがダウンしている <ul style="list-style-type: none"> MNG LINK LED が点灯しない 	<ul style="list-style-type: none"> CLI コマンド show interface GigabitEthernet 1/1 管理インターフェイスへの ping に失敗する 	RJ-45 コネクタがプラットフォームまたはネットワークに接続されていません。	ケーブルを GBE ポートおよびネットワークに接続し直します。
		ケーブルが破損しています。	ケーブルを調べて、交換します。
管理リンクが起動している <ul style="list-style-type: none"> MNG LINK LED が点灯している 管理インターフェイスへの ping に失敗する 	CLI コマンド <ul style="list-style-type: none"> show ip route show ip default-gateway 	次のいずれかの設定が間違っている可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> IP アドレス/サブネットマスク IP デフォルト ゲートウェイ 	「初期設定パラメータ」(P.5-2) を参照。 『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』の「IP Configuration」を参照してください。
	CLI コマンド show access-lists	エントリを拒否する ACL が割り当てられている可能性があります。	「初期設定パラメータ」(P.5-2) を参照。 『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』の「Access Control Lists」を参照してください。
<ul style="list-style-type: none"> Telnet 接続を確立できない MNG LINK LED が消灯している (リンクがダウンしている) 	<ul style="list-style-type: none"> CLI コマンド show interface GigabitEthernet 1/1 	管理インターフェイス IP アドレスまたはサブネットマスクが正しくありません。	管理ポートの IP アドレスおよびサブネットマスクを調べて、設定し直してください。
<ul style="list-style-type: none"> Telnet 接続を確立できない MNG LINK LED が点灯している (リンクがアップしている) 	CLI コマンド : show telnet status	Telnet サーバがディセーブルです。	Telnet サーバをイネーブルにします : service telnetd
	CLI コマンド : show telnet sessions	Telnet 接続数が多すぎます (Telnet 経由でサポートされる同時セッション数は最大 5 つ)。	オープンしている Telnet セッションを 1 つ以上クローズします。
	CLI コマンド : show ip default-gateway	デフォルト ゲートウェイが正しくありません (クライアントとして使用されるホストが、SCE プラットフォームと同じネットワーク内にありません)。	デフォルト ゲートウェイを調べて、設定し直します。「初期設定パラメータ」(P.5-2) を参照。 『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』の「IP Configuration」を参照してください。

表 8-7 管理サブシステムのトラブルシューティング (続き)

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
	CLI コマンド: <code>show ip route <host-ip-address></code>	ルーティング テーブルが正しく設定されていません (クライアントとして使用されるホストが SCE プラットフォームと同じネットワークにない場合、SCE プラットフォーム ネットワークにゲートウェイが複数存在します)。	ルーティング テーブルを調べて、設定し直します。「初期設定パラメータ」(P.5-2) を参照。 『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』の「IP Configuration」を参照してください。
	CLI コマンド : • <code>show access-lists</code> • <code>show ip access-class</code>	ホストが有効なアクセスリストのメンバーではありません。	「初期設定パラメータ」(P.5-2) を参照。 『Cisco SCE8000 Software Configuration Guide』の「Access Control Lists」を参照してください。
Telnet 接続が自動的に終了する	CLI コマンド : • <code>show line</code> • <code>show line vty timeout</code>	Telnet 接続がタイムアウトしている可能性があります。	回線のタイムアウトを再設定します : <code>timeout <time in seconds></code>

リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング

次を確認し、リンク インターフェイス サブシステムの問題を特定してください。

一般に、Cisco SCE8000 からトラフィックが送信されない場合、原因はリンクに問題があるか、または 10GBE インターフェイスの設定にあります。場合によっては、送信の問題とみなされる原因が Rx 側にあることもあります (Cisco SCE8000 でトラフィックが受信されないか、または回線上に実際にトラフィックがなく、これが通常の状態であることがあります)。



(注) TenGigabitEthernet インターフェイスに関する CLI コマンドの # は、SPA モジュールの番号 (SCE8000-SIP サブスロット) を表します。この値は 0 ~ 3 です。

リンク インターフェイス サブシステムの問題は、次のいずれかが考えられます。

- リンクがダウンしている (LINK LED が消灯していて、システム ステータスが警告状態である)
- ピアが Cisco SCE8000 からトラフィックを受信しない (LINK LED が点灯し、TX LED が点滅している)
- 10GBE リンクが起動しているにもかかわらず、ピアからトラフィックを受信していない (LINK LED は点灯しているが、RX LED は点滅していない)

表 8-8 リンク インターフェイス サブシステムのトラブルシューティング

現象	診断アクション	考えられる原因	推奨ソリューション
<ul style="list-style-type: none"> リンクがダウンしている (LINK LED が点灯しない) 出力カウンタが増加しない 	CLI コマンド : <ul style="list-style-type: none"> show interface TenGigabitEthernet 3/#/0 counters 	コネクタがプラットフォームまたはネットワークに接続されていません。	ファイバを 10GBE ポートおよびネットワークに接続し直します。
		ファイバが断線しているか損傷しています。	ファイバを 10GBE ポートに接続し直すか、交換します。
		外部光バイパスを使用した接続に誤りがあるか、問題があります。	10GBE ポートと光バイパスモジュールを結ぶファイバを接続し直すか、交換します。
	一時的に光バイパス モジュールを接続解除し、動作を調べます。「10GBE 回線インターフェイス ポートのケーブル接続」(P.6-9) を参照。	外部光バイパス モジュールに問題があります。	光バイパス モジュールを交換します。
<ul style="list-style-type: none"> 10GBE リンクが起動している (LINK LED がグリーンに点灯) トラフィックが受信されない (10GBE インターフェイスの RX LED が点滅しない) 		ピアから Cisco SCE8000 にトラフィックが送信されていません。	ピアのトラフィック接続を調べます。

ユーザ ログを使用したトラブルシューティング

ユーザ ログは、任意のエディタで表示可能な ASCII ファイルです。起動、シャットダウン、エラーなど、システム イベントのレコードが格納されます。ユーザ ログを表示するには、ロガーを使用します。表示されたユーザ ログは、システムが正常に機能しているかどうかの判別や、テクニカル サポートに役立ちます。

- 「ロギング システム」(P.8-11)
- 「テクニカル サポート用ファイルの生成」(P.8-13)

ロギング システム

イベントは 2 つのログ ファイルのうちの 1 つに記録されます。ファイルが最大容量に達すると、そのファイルに記録されていたイベントは、一時的にアーカイブされます。その後、新しいイベントは代替ログ ファイルに自動的に記録されます。2 番めのログ ファイルが最大容量に達すると、ロギング イベントは最初のログ ファイルに戻され、ファイル内に保管されていた一時的なアーカイブ情報が上書きされます。

基本操作は次のとおりです。

- 外部送信元へのユーザ ログのコピー
- ユーザ ログの表示

- ユーザ ログの消去
- ユーザ ログ カウンタの表示/クリア
- 「外部ソースへのユーザ ログのコピー」 (P.8-12)
- 「内部の場所へのユーザ ログのコピー」 (P.8-12)
- 「ユーザ ログの表示」 (P.8-12)
- 「ユーザ ログの消去」 (P.8-12)
- 「ユーザ ログ カウンタの表示」 (P.8-13)
- 「ユーザファイルログの不揮発性カウンタのみの表示」 (P.8-13)

外部ソースへのユーザ ログのコピー

ログ ファイルは、外部ソースにコピーすることで表示できます。両方のログ ファイルを FTP サーバの稼動する外部ホストにコピーするには、次のコマンドを使用します。

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで **logger get user-log file-name ftp://username:password@ipaddress/path** を入力して、Enter を押します。
-

内部の場所へのユーザ ログのコピー

ログ ファイルは、ディスクにコピーすることで表示できます。両方のログ ファイルを SCE プラットフォームのローカル ディスクにコピーするには、次のコマンドを使用します。

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、**logger get user-log file-name target-filename** と入力し、Enter を押します。
-

ユーザ ログの表示



- (注)** ユーザ ログが巨大な場合は、このコマンドを推奨しません。巨大なログはファイルにコピーして表示します（「外部ソースへのユーザ ログのコピー」 (P.8-12) を参照）。
-

- ステップ 1** SCE# プロンプトで **more user-log** を入力して、Enter を押します。
-

ユーザ ログの消去

ユーザ ログのカウンタはいつでも消去できます。ユーザ ログには、システムの機能に関する重大な情報が含まれています。そのため、ログを消去する前に、コピーを作成することを推奨します。

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで **clear logger device user-file-log** を入力し、Enter を押します。

- ステップ 2** 「Are you sure?」という確認メッセージが表示されます。

ステップ 3 y を入力して、Enter を押します。

ユーザ ログ カウンタの表示

ログ カウンタには次の 2 種類があります。

- ユーザ ログ カウンタ：SCE プラットフォームの前のリポート以降に記録されたシステム イベント数をカウントします。
- 不揮発性カウンタ：起動時に消去されません。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**show logger device user-file-log counters** と入力し、Enter を押します。

ユーザファイルログの不揮発性カウンタのみの表示

ステップ 1 SCE# プロンプトで、**show logger device user-file-log nv-counters** と入力し、Enter を押します。

テクニカル サポート用ファイルの生成

テクニカル サポートの効率を最大限活かすため、システム ログ内の情報を提供してください。シスコテクニカル サポート スタッフが使用するサポート ファイルを生成するには、**logger get support-file** コマンドを使用します。

ステップ 1 SCE# プロンプトに **logger get support-file filename** を入力して、Enter を押します。

サポート情報が指定したファイル名で作成されます。この操作には時間がかかることがあります。

ステップ 2 サポート ファイルを外部ソースにコピーするには、SCE# プロンプトで、**copy filename ftp://username:password@ipaddress/path** を入力し、Enter を押します。
